



2092
卜4

二子園業院

門卜 4
號 2092
卷

明治六年七月

中學開業祝詞



京都

書籍會社藏板



國の盛衰其ハ人
材の有クテヨリ
人材の成否ハ

幼時とありのまゝ

育つよふ家、廣く

知識をせ、ため

蓋し経緯成

り、今、思ふ、六

五、政、維、新、の

聖徳寺の宗匠

廟下文下先

寺小学校を

建管出今也

之牧将下白を

以之管寺少也

新編 人文叢書 教

中 白 命 之 人 生 日

用 の 子 子 子 子

王家 經濟 濟 の

序 子 子 子 子 子

海外 文 明 の 誌

國より教を授けしを

遠くより長を採

りて之を補ふ

と云ふ文化の日

開きし月よ

度触の友負ハ

能く其事
勉属し
府下
の

人民之能く
道を
統

を

朝省果尔公何

明年

沛入原厚志

庶民之锡心

尔发民一致勉

强未盡力是

新修心るる度履
人氏府了る矣
し我美差云うる也

如方あすり弘海に命
今る存ふ以場を
并んて道とて学

則をいふ

突動進め

実行を促す

とては遺言

にふけたる

潔くしむ

健康を助くる
20

その後を流水

之外を繞る

木新長と公相

先當茂原もみ

是白部あぢり
20

孝子施るる

父兄をを

推るる

如くく

如くく

如くく

新法の玉行を

し各其志を

遂げ自由の權

を身ぶる事あり

学は道に誰より

志を遂げん

学はつれはれ何ぞ

自由の理を知らん

学はつれはれ何ぞ

勤と忠とを知らん

学はつれはれ何ぞ

美の生を知らん

以之爲所を備ぬ

主力に處るを能

き有るを業

善人か夫か

由の權を全し

遠く不似る地を

盛年一世不虛

母子情深

朝庭多難乃

濟之在懷也物付

事之凡子之氣

學之氣勃也
物之凡

今は物結集の
新編ありと聞

業の如き感好

よもゆゑ縁の
乃年所を志
縁は玩詞を

殊子

明治六年七月一日

参事 山口直

明治六年七月
官許

京都書籍會社

河原町通二條下二丁目

大黒屋太郎右衛門

